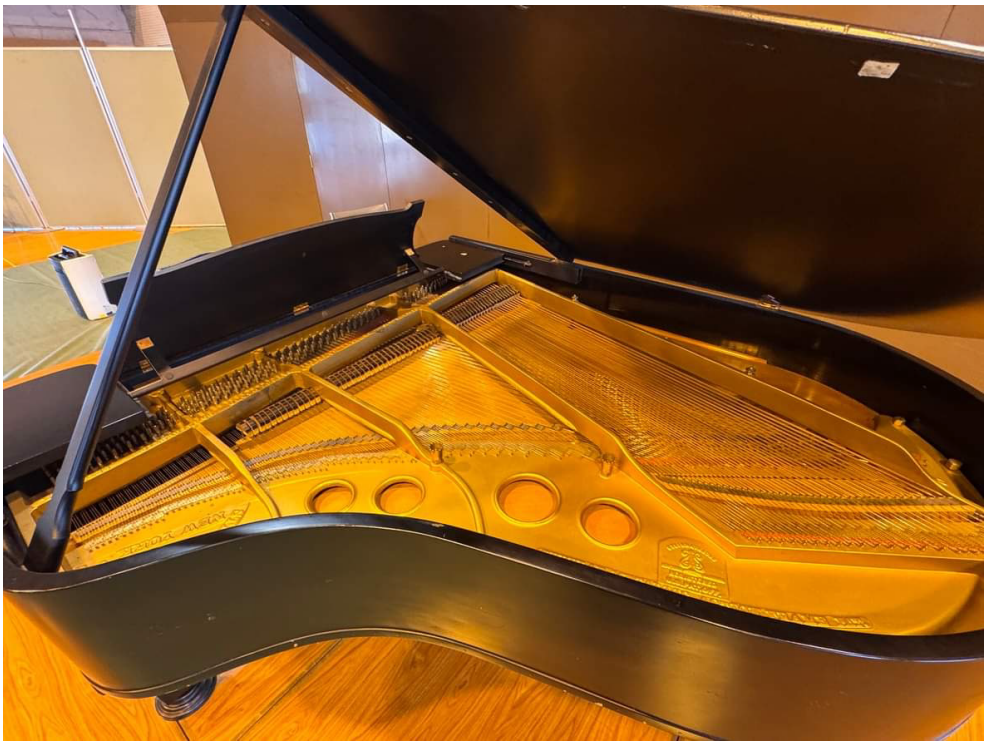
市史広報

第17号続報

旧久保小所蔵のスタインウェイピアノ

～近代・現代編の尾道音楽史より～



旧久保小学校体育館に保管されるスタインウェイ社製ピアノ。

旧久保小学校に保管されているスタインウェイについてはニューヨークで明治32年（１８９９）に製造されたものと、これまで考えられてきました。実際、１９９７年から９８年にかけて行われた全面修復時の報道記事にもそのように記載されています（『山陽日日新聞』平成９年８月13日付ほか）。けれども、『新尾道市史』編纂の調査の一環として、ピアノ内部に刻印された製造番号をスタインウェイ本社に照会したところ、「１９２４年にドイツのハンブルク工場で完成し、同年６月24日に大阪のピアノ販売業者、三木佐助によって購入された記録がある」と返答がありました。すなわち、明治32年にアメリカで完成されたものではなく、大正13年にドイツで完成されたものであることが明らかとなったのです。

この「三木佐助」とは、三木楽器株式会社の歴代当主の名前ですが、ここでは１８８８年に楽器販売を始めた第４代三木佐助のことを指すと思われます。その第４代佐助のもと、三木楽器は１９２１年にスタインウェイの日本総代理店となり、大正末から昭和の初めにかけて、日本におけるスタインウェイ販売の拠点となりました。久保小のスタインウェイも我が国の正規ルートともいえる三木楽器を通して購入されたもののようです。そこで、同店が現在も保管している当時のピアノ納入簿を調査したところ、大正13年12月に「尾道市久保本町の折川三郎」に同楽器が納品されたとの記述が、また別の売上帳簿では、大正13年の欄に同じ製造番号と「折川三郎」の記載が見つかりました。これにより、久保小で保管されてきた楽器と、この記録にある楽器が同一であることがほぼ確実となりました。

その折川三郎についても、この度の調査で少しずつ明らかとなってきました。それによると、折川氏は運動具と楽器の販売業を営んでいたほか（『尾道商工名鑑』尾道商工會議所、１９３０年より）、遺族の話によれば調律（あるいは楽器のメンテナンス）も手掛けていたようです。ただし、スタインウェイ購入の経緯については詳細がまだ不明です。これまで伝えられてきた話によると、「学校創立50周年の大正11年に保護者組織から贈られたもの」（『山陽日日新聞』平成９年８月13日付）とあることから、折川氏自身は小売店として楽器の発注と納品を担ったものと考えられますが、この記述と購入年には若干の誤差があること、また、寄贈の証拠を示す資料が実際には見つかっていないことなどから、今後も調査の必要があると思われます。

２０２６年11月４日　能登原 由美［尾道市史編集委員会専門部会（近代）委員・大阪音楽大学特任教授］